

優秀賞（名城大学附属 社本 実衣那さん）ねこはるすばん

非常にPOPらしいPOPである。「ねこはるすばん」ではキャッチコピーとしてどうしても絵本の絵や帯の文句などを利用してしまいうものが多く、新奇性に欠けたきらいがあったが、その中で「ネコ派・イヌ派」という捉え方でコピーを作っているものが一定数あり、人は派閥属性にとらわれやすいものであるということのをうまく利用している。この作品も特にその点が高く評価されたが、デザインとしてもユーモラスな絵、明確なコントラスト、文字の読みやすさ（目の引きやすさ）が際立っている。文字のちょっとした工夫も憎い。サブコピーは細かすぎるように思われるが、模様として見るようなところか。

優秀賞（名城大学附属 坪倉 衣里さん）ねこはるすばん

樹木の厚みと質感がものすごい存在感を与えている。木の「うろ」（図書の内容にあるものだが）や葉の立体感もアクセントとして素晴らしい。うろの中に一応ネコが配されているのはご愛敬。色調は白一色に淡い緑と、柔らかい印象を与えつつ、樹木の造形を際立たせている。樹木は画面に半分ほど見える形になっているが、その切り取り方もうまい。とにかく立体感と質感が圧倒的な秀作である。

優秀賞（東海樟風 坂 和泉さん）予告された殺人の記録

重厚な装飾された書物を思わせる、絵画のような作品である。配された物体の鮮明な輪郭と不思議な色づかい、輝きのある文字の輪郭、それでいながら液体的なおどろおどろしい雰囲気、しかもどこか懐かしさを感じさせる、図書の雰囲気そのまま伝えるような絵は見事である。文字の形がやや崩れているところは惜しいようにも思われるが、それも味かもしれない。ビジュアルで圧倒される作品である。

優秀賞（愛知商業 高井 里菜さん）予告された殺人の記録

本書には「犯行予告」のような新聞切り貼りの文字を並べた作品も一定数あったが、これもその一つである。本作品はしかし全体がコーティングされたようなつるつるの表面になっており（テープで上張りをしてある）、その質感が非常に目を引きやすい。余白の使い方もうまく、白を基調としたおとなしい配色は環境内で逆に存在感を発揮するものと思われる。ワンポイントの血痕が平板さを打ち消すと同時に内容をうかがわせている。

優秀賞（浜名 松岡希弥さん）ねこはるすばん

シンプルだが目を引きやすい仕掛けがいくつか見られる作品である。猫の背中ファスナーは着ぐるみの造形で猫の「本当の姿」を暗示しているが、このアイデアはこれまでになかったものである（今回はいくつかの作品にみられた）。窓の透明感もよい（やや弱いプラスチック板の質感も目を引く）。ワンポイントの吹き出しや、タイトルの字体、足跡などは、その配置も含め、オーソドックスだが目を引きやすいだろう。猫本体の質感として、もう少し毛並みを感じさせる工夫などがあるとなお良かったかもしれない。

優秀賞（岐南工業 白井 翔哉さん）ねこはるすばん

回転する仕掛けで猫の二面性を表している作品。回転の造形は本コンテストでも時々見られるが、効果的に用いると良いPOPになる。表裏のデザインの統一的部分と対比された部分（色、イラスト、文言）が、抑制感がありながらよくコントラストを描き出している。イラストは絵本の絵から取っているが、最も特徴を表すものを選んでいく。特に表側の表情がよい。全体の作りが非常にしっかりしており、実用に十分耐えそうなのもよいポイントである。同校にはこの他にも優れた造形の作品がいつも見られるが、耐久性や整ったデザインは大変評価できる場所である。

優秀賞（菊里 中村 天音さん）極北の動物誌

極地方の美しさを表したデザインの作品。粉状のきらめく飾りが配してあり（粉雪のきらめき、あるいは星の光か）とにかく美しい。同様のデザインの作品は他にもあり、どれも美しさが目を引いた。この作品では白樺のような樹木を表すストローが貼り付けてあり、タイトル文字の一部を成しているが、出っ張りが抑制的でありながら全体の中でコントラストを際立たせていること、傾きのずれがあることなど、「斉一の中の変化」が計算されたうまい作りである。色づかいも暗い青と白の基調色に一部の赤を配し、コントラストがある。うまい作品である。